

経営比較分析表（令和5年度決算）

埼玉県小鹿野町 国民健康保険町立小鹿野中央病院

法適用区分	業種名・事業名	病院区分	類似区分	管理者の情報
当然財務	病院事業	一般病院	50床以上～100床未満	自治体職員
経営形態	診療科数	DPC対象病院	特殊診療機能 ※1	指定病院の状況 ※2
直営	9	-	ド	救
人口（人）	建物面積（㎡）	不採算地区病院	不採算地区中核病院	看護配置
10,316	8,475	第2種該当	-	10：1

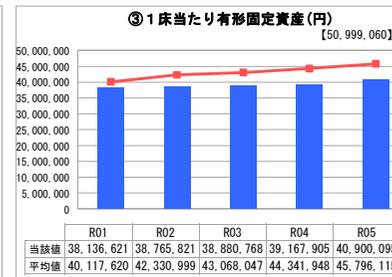
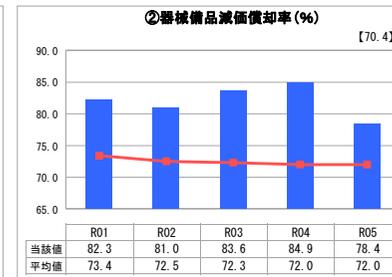
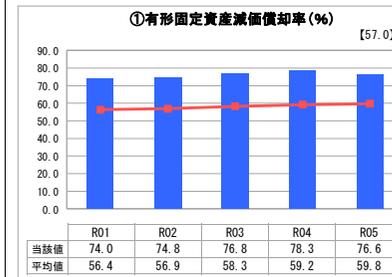
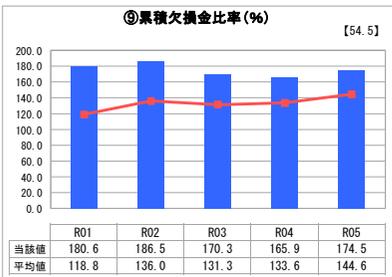
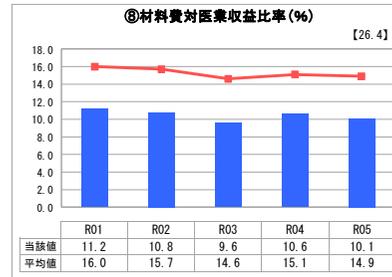
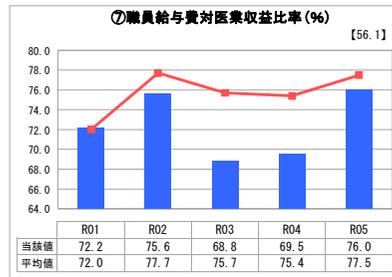
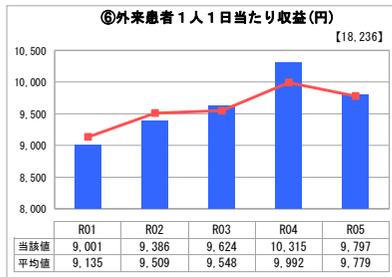
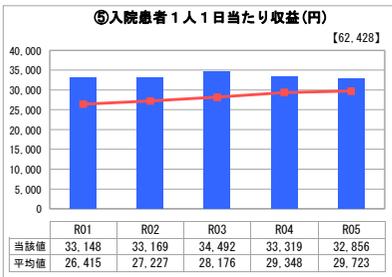
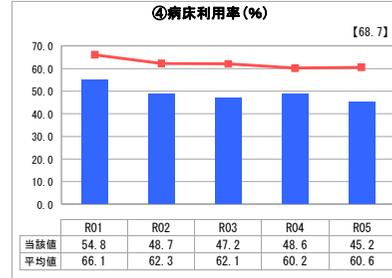
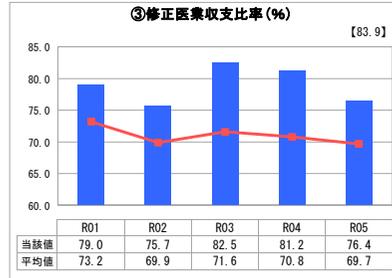
※1 ド…人間ドック 透…人工透析 I…ICU・CCU 未…NICU 未…未熟児室 訓…運動機能訓練室 ガ…ガン（放射線）診療

※2 救…救急告示病院 臨…臨床研修病院 が…がん診療連携拠点病院 感…感染症指定医療機関 へ…へき地医療拠点病院 災…災害拠点病院 地…地域医療支援病院 特…特定機能病院 輪…病院群輪番制病院

許可病床（一般）	許可病床（療養）	許可病床（結核）
95	-	-
許可病床（精神）	許可病床（感染症）	許可病床（合計）
-	-	95
最大使用病床（一般）	最大使用病床（療養）	最大使用病床（一般+療養）
60	-	60

グラフ凡例
■ 当該病院値（当該値）
— 類似病院平均値（平均値）
[] 令和5年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況

経営強化に係る主な取組（直近の実施時期）

機能分化・連携強化 (従来の業務・ネットワークを含む)	地方独立行政法人化	指定管理者制度導入
-	-	-
年度	年度	年度

I 地域において担っている役割

高齢化が著しい秩父地域であるが、当院は西秩父地域では唯一の病院である。院機能では急性期病床45床、回復期病床30床（地域包括ケア病床）で運営している。入院患者の退院後も見据えて多職種で連携し、予防からリハビリまで切れ目のない医療を提供している。外来診療では近隣のクリニックでは難しい検査や手術も実施している。また、訪問診療を積極的にを行い、在宅でも適切な医療が受けられるよう整備している。加えて、令和5年度から訪問看護事業を当院保健課より当院に移管し、さらなる在宅医療提供体制の強化に向けて注力している。以上のことから、西秩父地域の医療拠点としての役割を担っている。高齢化が著しく、山間部であり市街地への公共交通機関が乏しい当該地域としては要となる病院である。

II 分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

① 経常収支比率→外來収益は、新型コロナウイルス影響後、発熱外来対応が前年度を下回った影響もあり減となった。入院収益は前年度末に発生したクラスターの影響が長引き前年度を下回った。一般会計からの繰入金も前年度を下回った影響で収支比率は100%未満を記録した。② 医業収支比率→外來、入院収益の減少が影響し医業収益が前年度より減込み、医業費用は人件費や施設維持により増加となり収支比率は前年度より減となった。③ 修正医業収支比率→給与費、施設維持等の費用が増加している。収益でまかなうことが困難であり、一般会計からの繰入に依存している状況である。④ 病床利用率→入院患者の減少が影響し、回復期病床にも30床での運用を行っている。クラスターの影響を受けた年度当初の収益が低かったことが響いた。年度末にかけて増加傾向に転じたが、前年度を下回った。⑤ 入院患者1人1日当たり収益→高齢の多い秩父地域を入院で対応していたが、自費より希望する患者が増加し、入院患者1人1日当たりの収益は減となった。⑥ 外来患者1人1日当たり収益→発熱外来の対応が前年度を下回ったこと、地域人口の減少も加わり収益が伸び悩み、収益が落ち込んだ。⑦ 職員給与費対医業収益比率→前年度比で入院・外來収益等医業収益の減、職員数の増により、職員給与費対医業収益比率は高くなっており、削減の余地が限られてきた。⑧ 材料費対医業収益比率→入院患者減少に伴う医薬品費、検査材料費の減、発熱外来減少に伴う新型コロナウイルス検査試薬の増減が影響し収支比率は前年度より高くなった。⑨ 累積欠損金比率→14年度病院に増改築工事を実施し、多額の減価償却費を計上している。人口減少も加速しており、現状のままでは収支増加は極めて難しい状況である。累積欠損金の解消に向け、訪問看護事業等の新たな方法を導入し経営改善に努めている。

2. 老朽化の状況について

① 有形固定資産減価償却率、② 機械備品減価償却率は類似団体平均値を上回っており、固定資産減価償却率が高いことから老朽化が進んでいると思われる。③ 1床あたり有形固定資産については、平均値を下回っているが、老朽化により設備の更新が増えることが予想される。将来の減価償却費の負担を考慮し、過大な投資とならないよう慎重に検討したい。病院本館は昭和51年建設し、40年経過しており、建物の安心・安全を確保するため、平成29年度に耐震工事を実施し、雨漏り対応工事を令和2年度に実施した。加えて令和6年度中に屋上防水工事も実施予定である。機械備品についても類似団体と比較して減価償却率が高くなっており、医療機器に関しては、1年でも長く有効利用するために、保守点検及び精度管理を定期的に実施し、耐用年数より長く利用している機器が多い。保守点検業者からの情報により精度が確保されないや判断された場合は、機器の更新を行なっている。今後は、老朽化が進んでいる空調設備、ボイラー、照明のLED化等の更新を計画をしている。

全体総括

当該地域の人口減少、高齢化は年々厳しさを増しており、病院運営が逼迫する要因となっている。とりわけ施設全体の老朽化が著しいが、多額の費用を投じなければならず、大幅な改修は困難である。令和5年度については、令和4年度末に発生した新型コロナウイルスのクラスターによる影響が長引き、前期の入院患者数が大きく落ち込んだ結果、最終的な入院・外來収益についても前年度を下回る決算となった。令和5年度から取られた訪問看護事業については、好調なスタートを切っており、収支改善を図るうえで重要な事業となると考えられる。また、令和5年度に策定した経営強化プランでは患者動向を注視し、病棟の集約化を検討する計画で、併せて訪問看護・訪問診療の在宅医療の強化を図り、当院が地域医療の拠点として存続するために最適な方法を検討していきたい。

※「類似病院平均値（平均値）」については、病院区分及び類似区分に基づき算出している。